

## アカデミックフェス 事後レポート

**企画名：** 気候変動から考える持続可能な社会とは？！  
—低炭素社会と ESG 投資の潮流から読み解く—

**企画名（英語）：** What is the Sustainable society from the perspective of climate change ?! Learning from low-carbon society and trend of ESG investment

**時 間：** 15：00～16：30

**会 場：** アカデミーコモン ROOM-B（A6会議室）

**登壇者：** [コーディネーター]

柳憲一郎（明治大学法学部専任教授）

[登壇者]

大塚直（早稲田大学法学学術院・大学院法務研究科教授）、

佐藤勉（株式会社国際協力銀行）

永井一清（明治大学理工学部専任教授）

小松英司（明治大学環境法センター専門研究員）

### 開催概要：

本企画では IPCC から提言された気候変動リスクから考える持続可能な社会のあり方やその社会をどう構築するか、カーボンリサイクルによる低炭素社会化を中心に議論したい。

一方、低炭素社会化のイノベーションを加速させ、インフラ整備を幅広く支援する仕組みも必要とされており、ESG 投資という世界的潮流を踏まえて考える。

### 開催概要（英語）：

In our program, we will discuss what is the desirable Sustainable Society and how to create it from a perspective of the climate change risk proposed by IPCC. The central topic is the “low-carbon society” caused by the carbon recycle system.

On the other hand, it is also needed the mechanism that support infrastructure development and accelerate the innovation for low-carbon society. So we will discuss the trend of ESG investment.

### 開催内容：

今後最も成長が著しい地域とされているアジアにおいて、経済と環境負荷のデカップリングは必須となっているが、その解決方法は未だ模索中であり、最も重要な研究テーマ

ともいえ、わが国の貢献が期待されている。なかでも、地球温暖化を解決する低炭素社会の構築は長期的かつ世界的に取り組むべき課題であり、解決するための社会構造のあり方や具体的な制度設計などの課題・障壁を克服する必要がある未踏破の分野といえる。そこで、本企画では、下記の発表を行い、IPCC から提言された気候変動リスクから考える持続可能な社会のあり方やその社会をどう構築するか、カーボンリサイクルによる低炭素社会化を中心に議論した。さらには、世界的に注目されつつある ESG 投資についても議論を行うことで問題意識の共有化を図るとともに、来場者との対話を行った。

#### 【プログラムと発表内容】

1. 開会のあいさつ コーディネーター：柳教授
2. カーボンリサイクル研究の現状
  - ・ 2050 年度目標達成に向けた温暖化法政策：大塚教授  
パリ協定を受けて設定された 2050 年度目標に向けての現状と課題を報告された。
  - ・ カーボンリサイクルを切り開く膜技術：永井教授  
CO<sub>2</sub> の分離・回収を可能とする膜技術についての報告をされた。
  - ・ アジア域のカーボンリサイクルの社会実装：小松専門研究員  
アジア域での CCS 実装についての動向に関して報告がなされた。
3. 低炭素社会化に向けた仕組み作り
  - ・ 環境インフラの海外展開を支援する「QI-ESG」：佐藤氏  
投資対象や支援手法が拡大された QI-ESG について説明があった。
4. 来場者との対話  
ここでは、来場された方からの質問に対して登壇者から回答を行った。  
7 つほどの質問がなされ、十分な情報共有および活発な議論が図られた。

#### 【本企画の成果】

本企画は、来場者数が期待するほど多くなかったが、参加した来場者との対話によって、議論を行うことができた。特に、昨年度よりも来場者からの質問が多く、より深い情報共有ができたものと思われる。参加した企業や来場者（主に学生）等と連携しながら今後の本研究の進展を期待できる有意義な機会となった。

以 上